

## 将来人口について

---

10 年後の土岐市の人口について、目標人口案を作成しました。

本市の将来目標人口について、参考パターンも参考にしつつ、**ご意見**をお願いします。

## 将来人口(土岐市独自推計)

### 現状分析

- ・土岐市の住民基本台帳人口は、平成 8(1996)年 8 月の 66,650 人と比べ令和 6(2024)年 11 月は 54,286 人となり 18.6%の減となりました。
- ・住民基本台帳人口を年齢3区分別に見ると、令和 6(2024)年 11 月で、年少人口は 5,714 人(10.5%)、生産年齢人口は 30,730 人(56.6%)、老年人口は 17,842 人(32.9%)と少子高齢化が進んでいます。
- ・住民基本台帳人口は市内のいずれの町でも人口が減少しており、特に鶴里町と駄知町では直近 5 年間で人口が約 1 割減少となりました。
- ・人口動態は、直近の 10 年間全てで自然増減、社会増減ともに減少しました。
- ・出生数が令和 3(2021)年に初めて 300 人を下回り、死亡数が令和 4(2022)年に 800 人を上回ったことで、自然増減が 1 年で 500 人を超える減となりました。
- ・合計特殊出生率は、平成 25(2013)年の 1.23 から平成 29(2017)年に 1.41 まで回復したものの、令和 2 年以降急激に低下しており、令和 4 年には 0.99 と 1 を下回りました。
- ・15～49 歳の若年女性人口は、平成 25(2013)年の 11,144 人から減少傾向で、令和 4(2022)年には 9,265 人まで減少しました。
- ・出生数は約 350 から 400 人で推移していたが、平成 30 年以降は減少傾向で近年は 250 人を下回っています。
- ・社会増減は年によってばらつきがあるものの、10 年以上転出超過の状態が続いています。
- ・転入転出差を移動理由別に見ると、学業、職業、結婚の理由で転出超過が続いており、住宅事情では転入超過となっています。

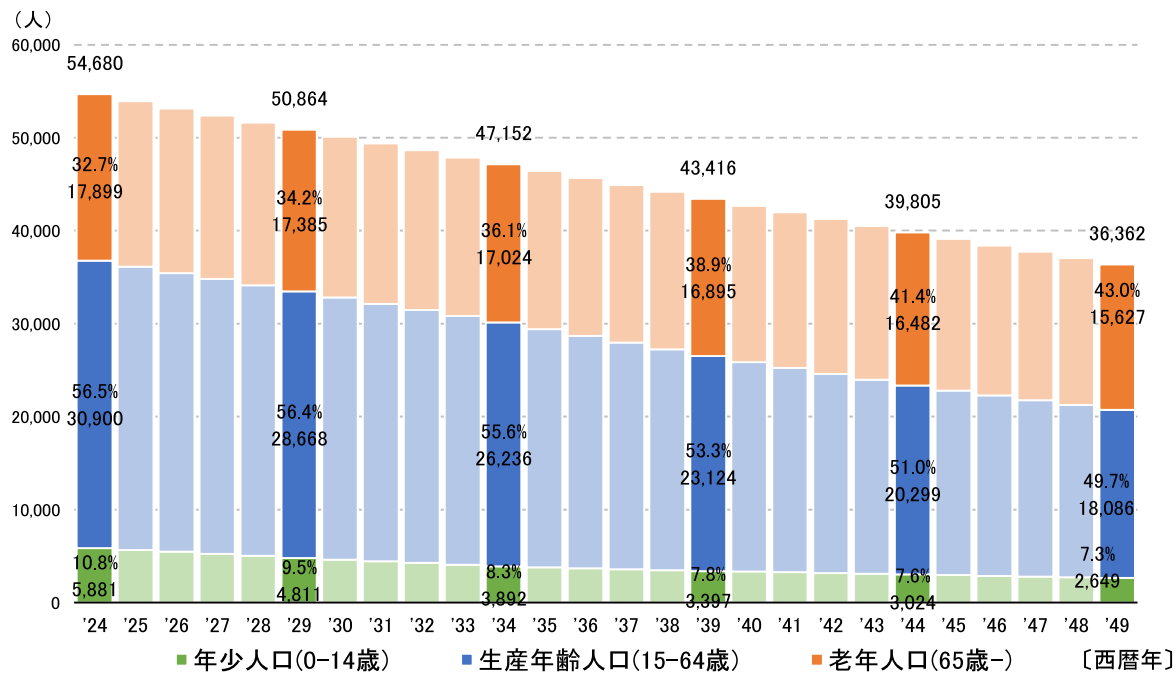
### 将来人口の推計

- ・土岐市の将来人口を、将来の自然増減(出生、死亡)、社会増減(転出転入差)などについて、このままの状態が続くと仮定し、将来の人口規模及び年齢構成の推移を推計しました。
- ・推計の対象は住民基本台帳人口とし、令和 6(2024)年 3 月 31日時点を基準としました。
- ・推計の期間は、令和 31(2049)年までの 25 年間としました。
- ・推計の方法は、コーホート要因法を採用しました。
- ・開発による人口推計の影響は考慮しませんでした。

将来人口推計結果(基本推計)

20 年後の令和 26(2044)年は、約 27%減の 39,805 人まで減少する見込み。

図表 1 人口推移



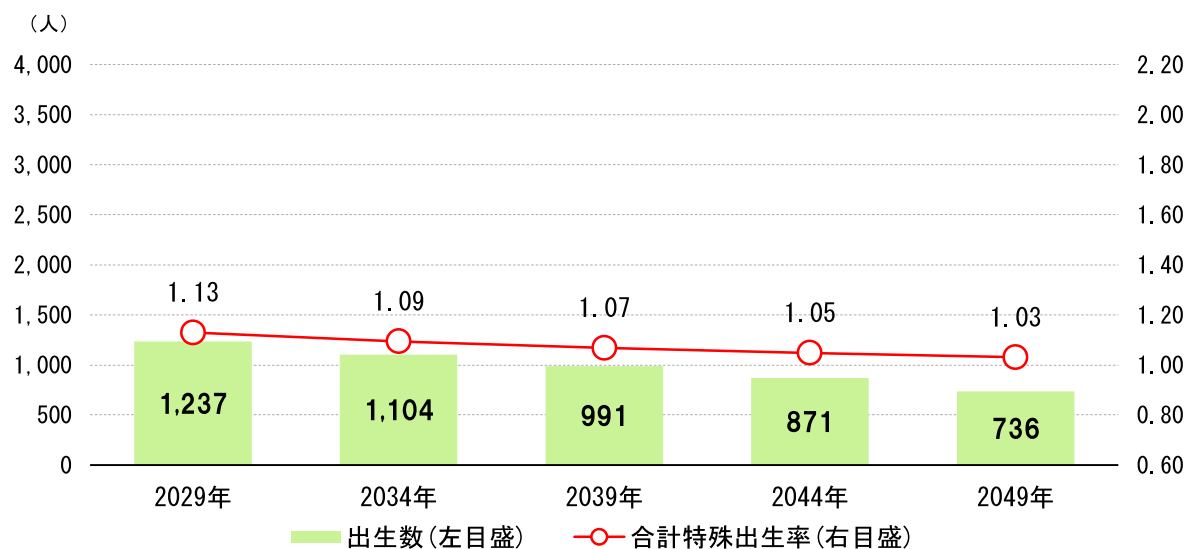
図表 2 基本推計による人口推移表

| 区分               | R6 (2024) |        | R11 (2029) |       | R16 (2034) |       | R26 (2044) |       |
|------------------|-----------|--------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|
|                  | 人口(人)     | 構成比    | 人口(人)      | 構成比   | 人口(人)      | 構成比   | 人口(人)      | 構成比   |
| 総人口              | 54,680    | -      | 50,864     | -     | 47,152     | -     | 39,805     | -     |
| 年少人口             | 5,881     | 10.8%  | 4,811      | 9.5%  | 3,892      | 8.3%  | 3,024      | 7.6%  |
| 生産年齢人口           | 30,900    | 56.5%  | 28,668     | 56.4% | 26,236     | 55.6% | 20,299     | 51.0% |
| 老年人口             | 17,899    | 32.7%  | 17,385     | 34.2% | 17,024     | 36.1% | 16,482     | 41.4% |
| 2024 年からの増加数,増減率 | 0         | 100.0% | -3,816     | 93.0% | -7,528     | 86.2% | -14,875    | 72.8% |

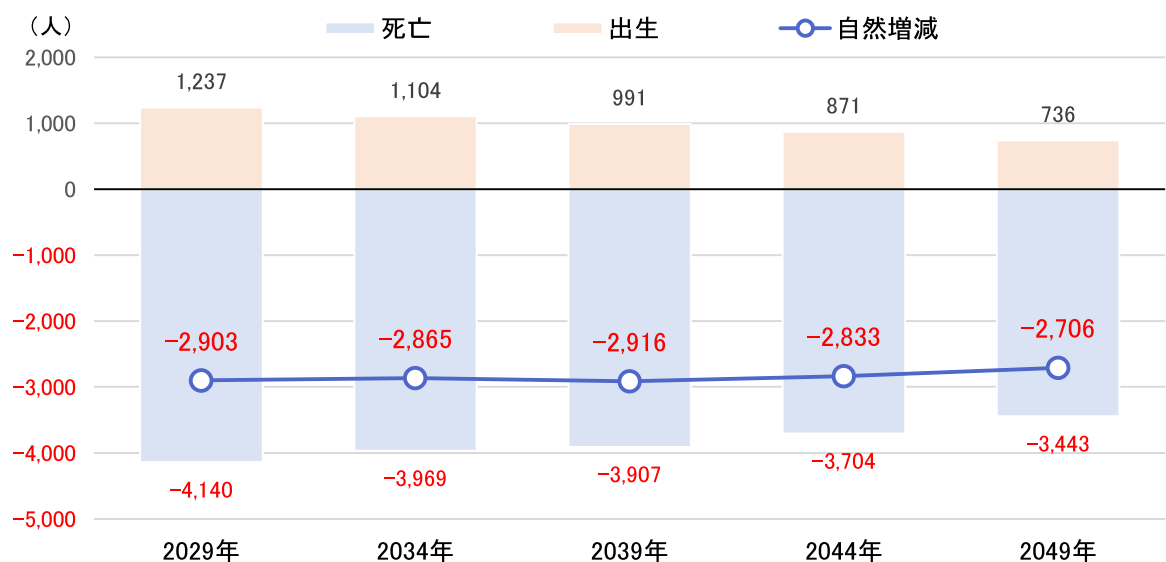
図表 3 基本推計で使用したパラメータ

| 区分   | 採用したデータ                                                                                                                                           | 出典                                                                              |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 基準人口 | ・ 令和 6 (2024) 年 3 月 31 日の住民基本台帳を利用しました。<br>・ 性別年齢 5 歳級別を利用しました。                                                                                   | 住民基本台帳                                                                          |
| 生残率  | ・ 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口 (令和 5 (2023) 年推計)』の値を利用しました。<br>・ 出生から 0~4 歳の生残率は、国立社会保障・人口問題研究所の平成 19 年の都道府県推計における県値を採用する。推計されていないものは直近の値と同じとしました。 | 『日本の地域別将来推計人口 (令和 5 (2023) 年推計)』・『日本の都道府県別将来推計人口』(平成 19 年 5 月推計) 国立社会保障・人口問題研究所 |
| 性比   | ・ 本市の過去 (平成 30 (2018) ~令和 4 (2022) 年) に出生した子の平均値を利用しました。                                                                                          | 『東濃西部の公衆衛生』 岐阜県                                                                 |
| 移動率  | ・ 平成 31 (2019) 年 3 月 31 日及び令和 6(2024)年 3 月 31 日の住民基本台帳人口を利用し、性別年齢 5 歳級別に算出しました。                                                                   | 住民基本台帳                                                                          |
| 出生率  | ・ 本市の過去 (平成 26 (2014) ~令和 4 (2022) 年) の合計特殊出生率について、5 か年の移動平均を算出し、移動平均の近似式より将来の合計特殊出生率を算出しました。                                                     | 『東濃西部の公衆衛生』 岐阜県                                                                 |

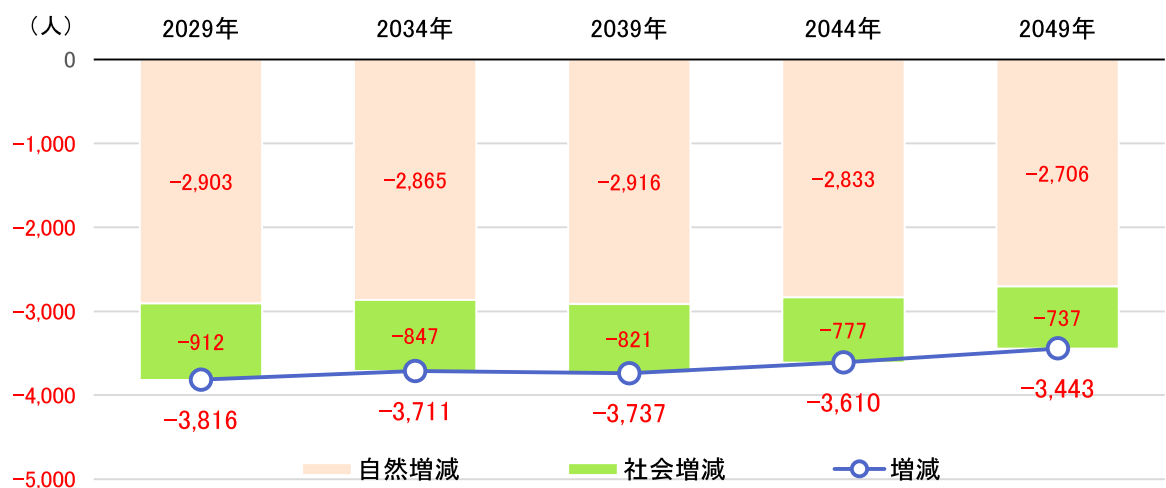
図表 4 基本推計による出生数(5年間の合計)・合計特殊出生率の推移



図表 5 基本推計による自然動態(5年間の合計)



図表 6 基本推計による人口動態(5年間の合計)



## 将来人口推計分析

---

### 推計結果の概要

- ・土岐市の人口は、長期の人口減少過程に入っていると考えられます。総人口は、令和 13(2031)年頃には 5 万人を割り、令和 26(2044)年には 4 万人を下回る見込みです。20 年後の令和 26(2044)年に約 27%減の 39,805 人まで減少する見込みです。
- ・年少人口、生産年齢人口、老年人口の3区分全てで人口が減少する見込みです。
- ・年少人口割合は、令和 11(2029)年には 1 割を下回り、その後も減少する見込みです。
- ・出生率は減少し続け、令和 31(2049)年には 1.03 まで低下する見込みです。
- ・出生数は 2045 年から 2049 年までの 5 年間で 736 人(1 年あたり 147 人)まで低下する見込みです。
- ・生産年齢人口割合は微減傾向で、令和 31(2049)年には5割を切る見込みです。
- ・老年人口割合は増加傾向で、令和 24(2042)年には 4 割を超える見込みです。
- ・高齢者が増え死亡数が高止まりするため、人口減少対策施策を実施し、今後出生率が劇的に回復したとしても、過去の少子化により親世代が減少しており、効果が出るまでには長い年月がかかる見込みです。

### 土岐市の目指すべき人口の将来展望

- ・出生率向上に特に力を入れ、出生率(出生数)を上げることで自然減を緩やかにする。
- ・こどもを産み育てやすい環境を整備することで子育て世代の移住定住を促し転出超過を改善する。
- ・行政だけでなく、民間企業や市民と連携して取り組む。
- ・具体的には、ライフデザインセミナー、異性とのコミュニケーション講座、結婚を望む方への出会いの場の提供、不妊の相談支援、子育て費用の助成や情報提供など、切れ目のない支援を総合的に実施する。
- ・長期に渡る人口減少傾向が避けられないため、人口が減少し高齢化することで地域の活力が落ちることの無いよう、年齢、性別、国籍、障害の有無などによらず誰もが生涯活躍できる場を作り、人口減少、少子高齢化を前提とした持続可能なまちづくりを進める。

# 土岐市人口ビジョン案

## シナリオ:出生率リバウンド・子育て世代移動率改善

- ・合計特殊出生率をコロナ禍以前の数値まで引上げ、25 年後まで出生数年間 200 人を維持する。
- ・子育て世帯への支援策を実施することで、子育て世代の移動率を改善する。

### 要因目標値

#### ( i )合計特殊出生率

- ・合計特殊出生率を令和 26(2044)年までに 1.4 に回復する

#### 合計特殊出生率

| R6(2024)年 | R11(2029)年 | R16(2034)年 | R26(2044)年 |
|-----------|------------|------------|------------|
| 1.23      | 1.29       | 1.34       | 1.40       |

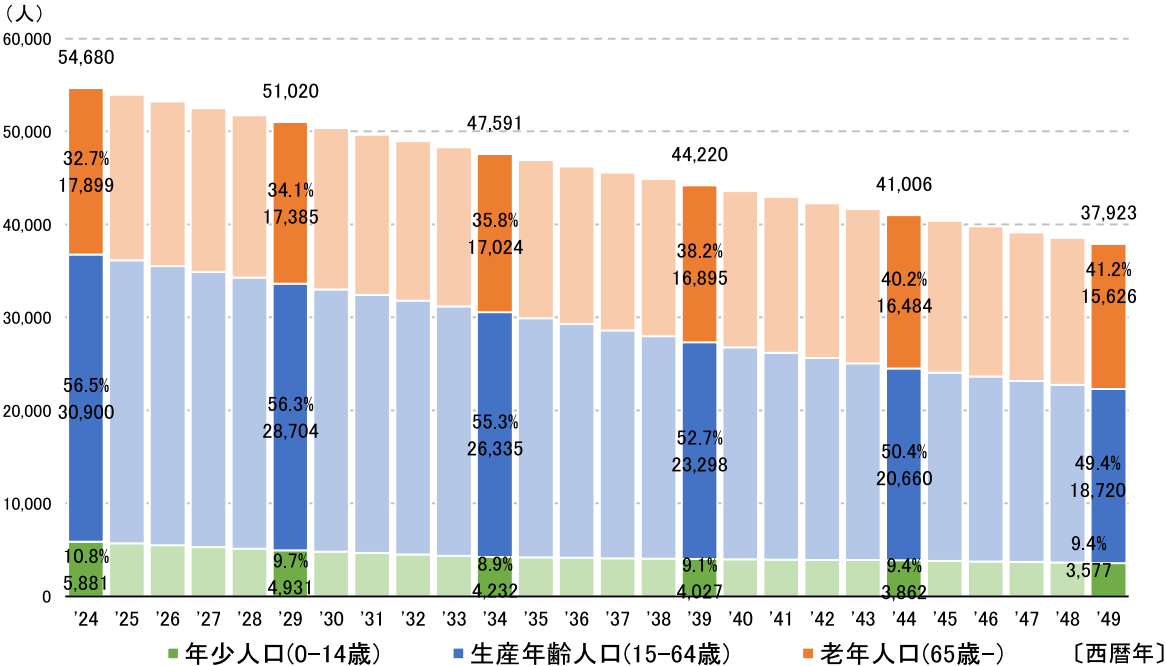
#### ( ii )転出入

- ・子育て世帯の移住定住を促進し、男女とも 25～39 歳の転出超過数を令和 26(2044)年までに半減する

### 総人口推移

令和 26(2044)年は、約 25%減の 41,006 人。

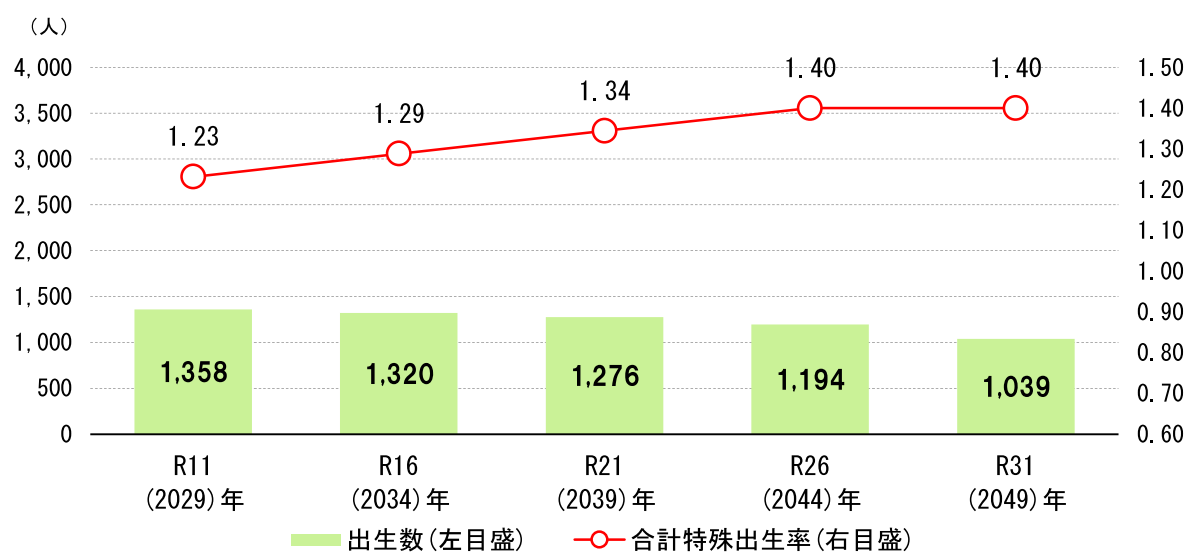
図表 7 人口ビジョン案による人口推移



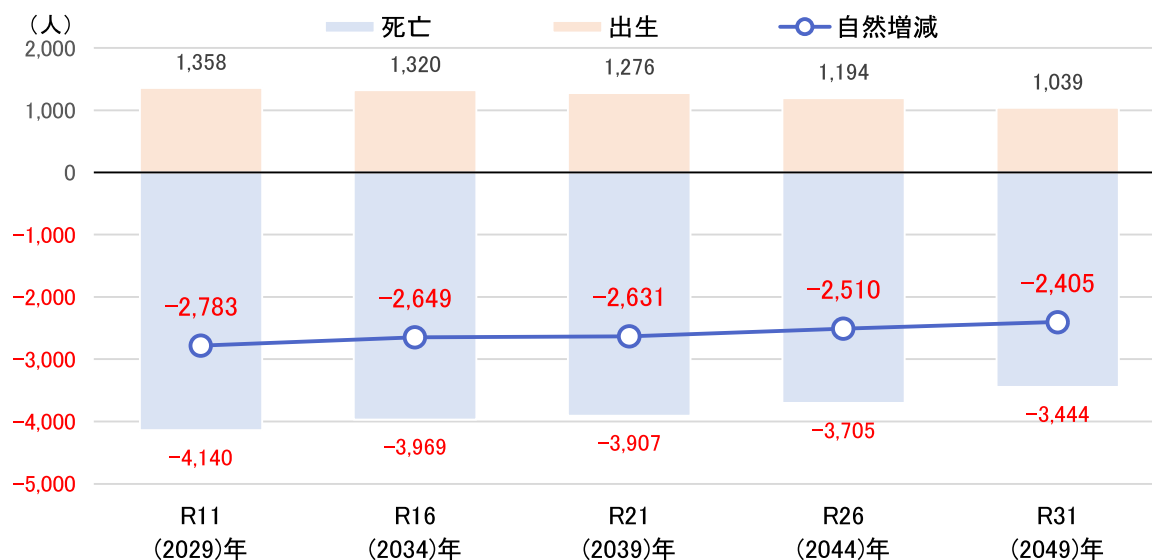
図表 8 人口ビジョン案による人口推移表

| 区分               | R6 (2024) |        | R11 (2029) |       | R16 (2034) |       | R26 (2044) |       |
|------------------|-----------|--------|------------|-------|------------|-------|------------|-------|
|                  | 人口(人)     | 構成比    | 人口(人)      | 構成比   | 人口(人)      | 構成比   | 人口(人)      | 構成比   |
| 総人口              | 54,680    | -      | 51,020     | -     | 47,591     | -     | 41,006     | -     |
| 年少人口             | 5,881     | 10.8%  | 4,931      | 9.7%  | 4,232      | 8.9%  | 3,862      | 9.4%  |
| 生産年齢人口           | 30,900    | 56.5%  | 28,704     | 56.3% | 26,335     | 55.3% | 20,660     | 50.4% |
| 老年人口             | 17,899    | 32.7%  | 17,385     | 34.1% | 17,024     | 35.8% | 16,484     | 40.2% |
| 2024 年からの増加数,増減率 | 0         | 100.0% | -3,660     | 93.3% | -7,089     | 87.0% | -13,674    | 75.0% |

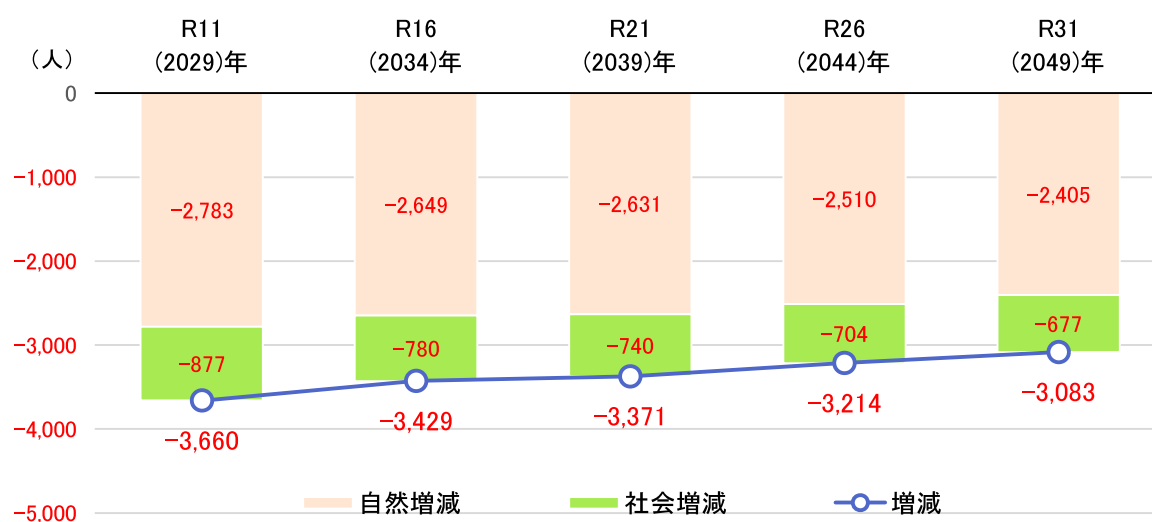
図表 9 人口ビジョン案による出生数(5年間の合計)・合計特殊出生率の推移



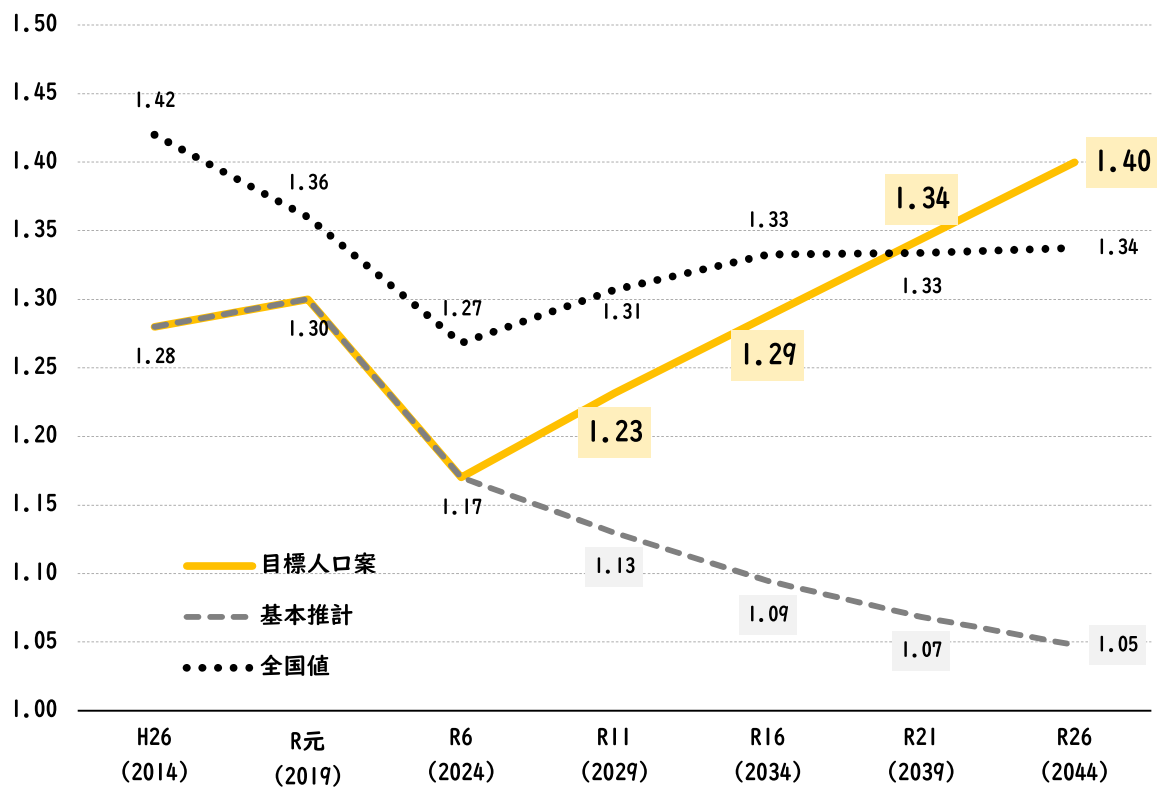
図表 10 人口ビジョン案による自然動態(5年間の合計)



図表 11 人口ビジョン案による人口動態(5年間の合計)



## (1)合計特殊出生率の比較



図表 12 出生率推移表

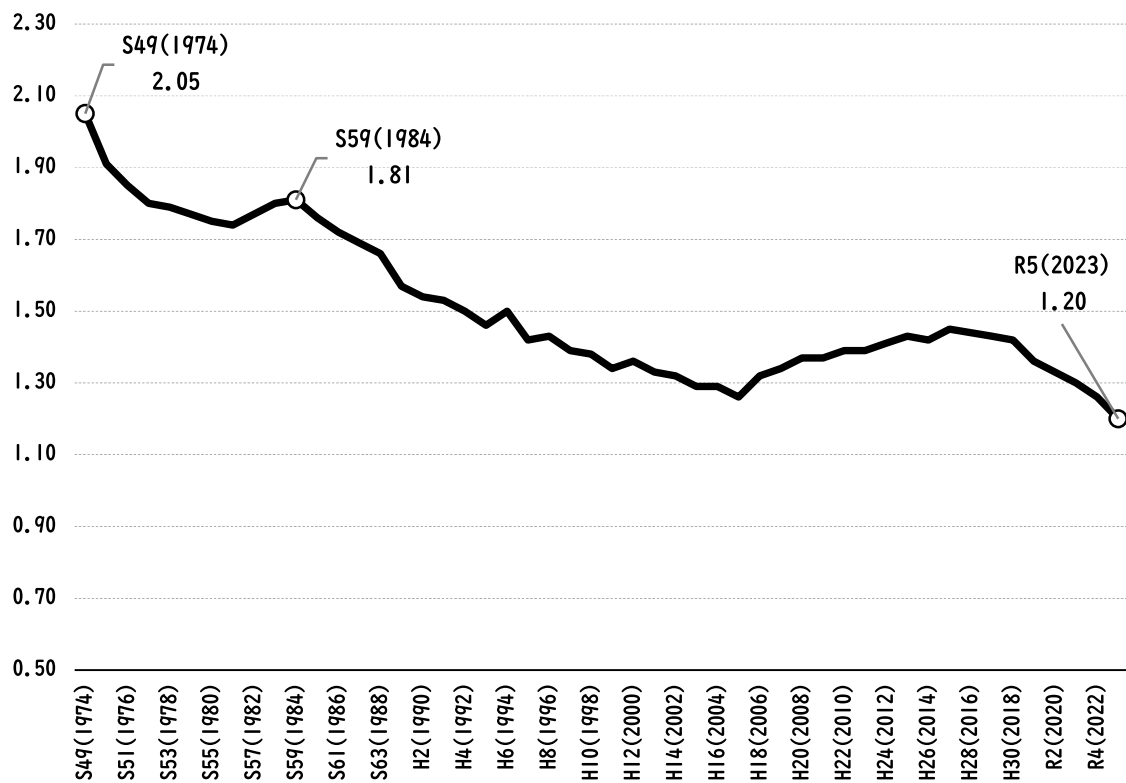
| 区分    | H26<br>(2014) | R元<br>(2019) | R6<br>(2024) | R11<br>(2029) | R16<br>(2034) | R21<br>(2039) | R26<br>(2044) |
|-------|---------------|--------------|--------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 目標人口案 | 1.28          | 1.30         | 1.17         | 1.23          | 1.29          | 1.34          | 1.40          |
| 基本推計  |               |              |              | 1.13          | 1.09          | 1.07          | 1.05          |
| 全国値   | 1.29          | 1.42         | 1.27         | 1.31          | 1.33          | 1.33          | 1.34          |

※ 2014年、2019年値は実績値。2024年値は、2018～2022年の平均値

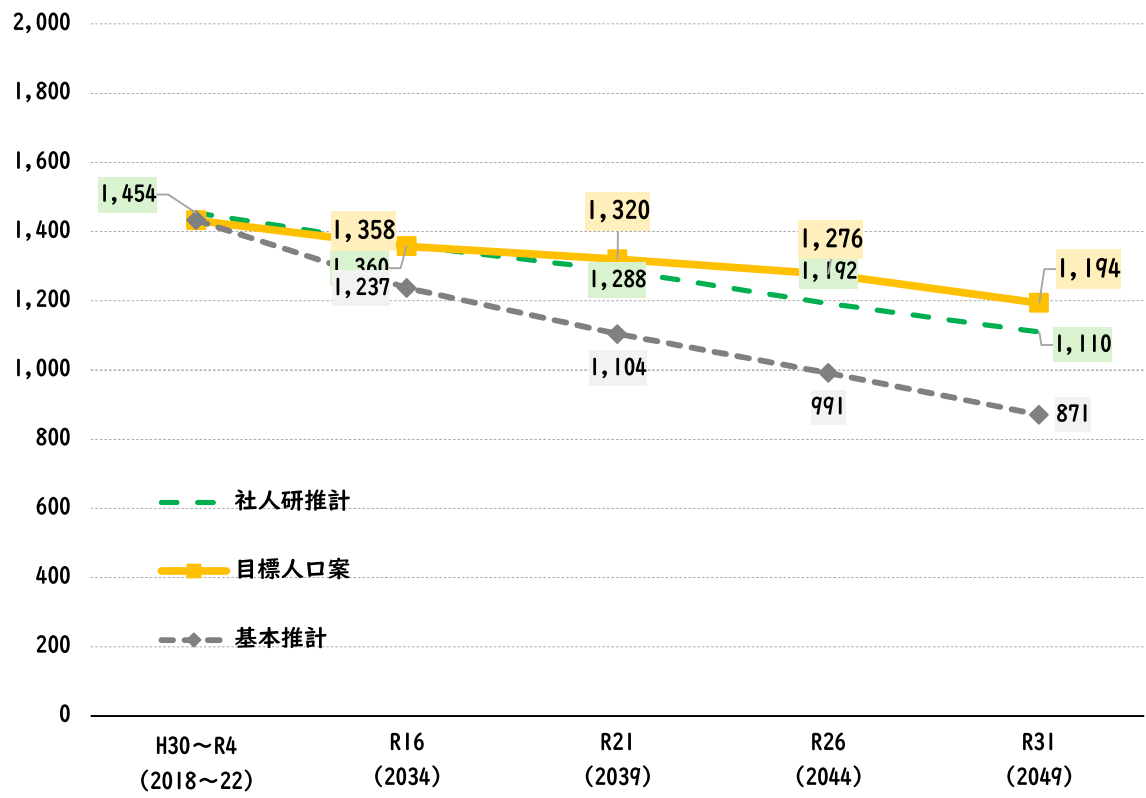
※2 2024年以降の全国値は社人研推計より



## (参考)合計特殊出生率の全国値の推移



## (2)出生数(5年の合計)の比較



図表 13 パターン別出生数推移

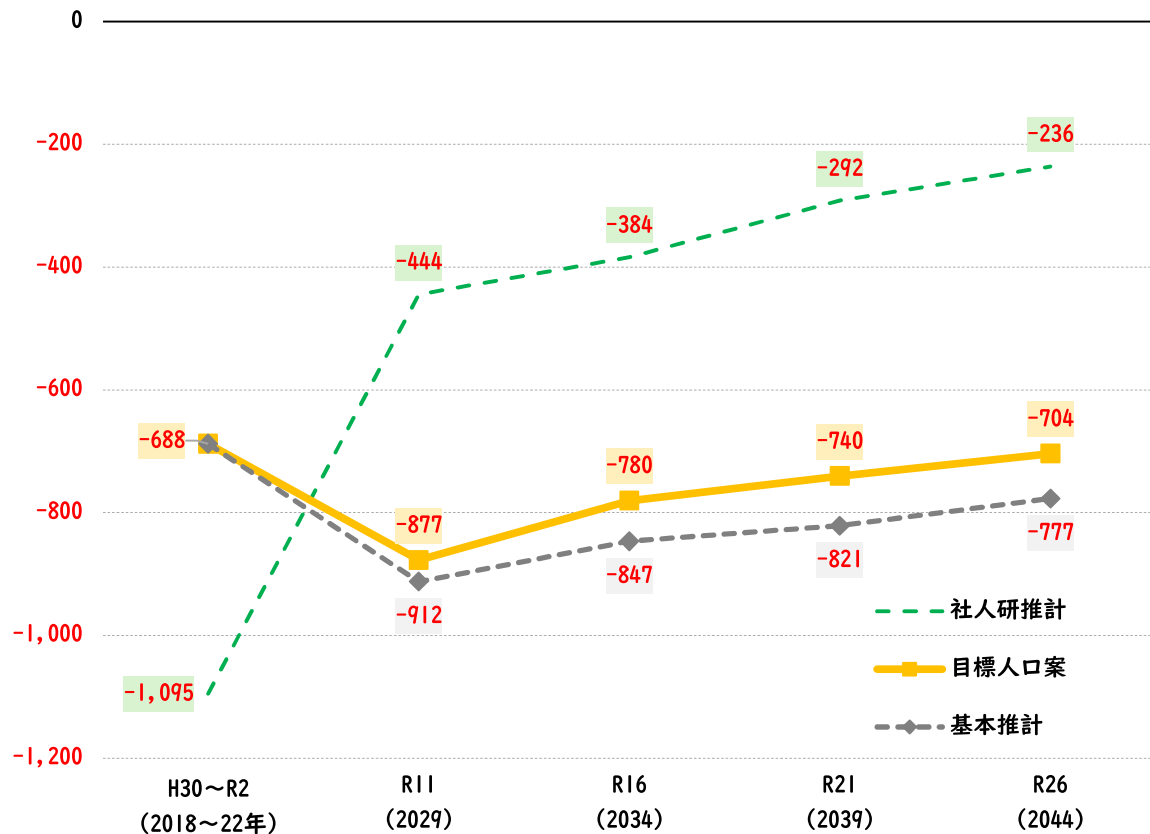
単位:人

| パターン  | H30~R4<br>(2018~22)<br>(社人研 2024 年) | R11<br>(2029) | R16<br>(2034) | R21<br>(2039) | R26<br>(2044) |
|-------|-------------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 社人研推計 | 1,454                               | 1,360         | 1,288         | 1,192         | 1,110         |
| 基本推計  | 1,433                               | 1,237         | 1,104         | 991           | 871           |
| 目標人口案 |                                     | 1,358         | 1,320         | 1,276         | 1,194         |

※ 社人研推計の値はそれぞれ 1 年ずれ。

※2 H30~R4(2018~22)年は土岐市の実績値

### (3)社会動態の比較



図表 14 パターン別社会動態推移

単位:人

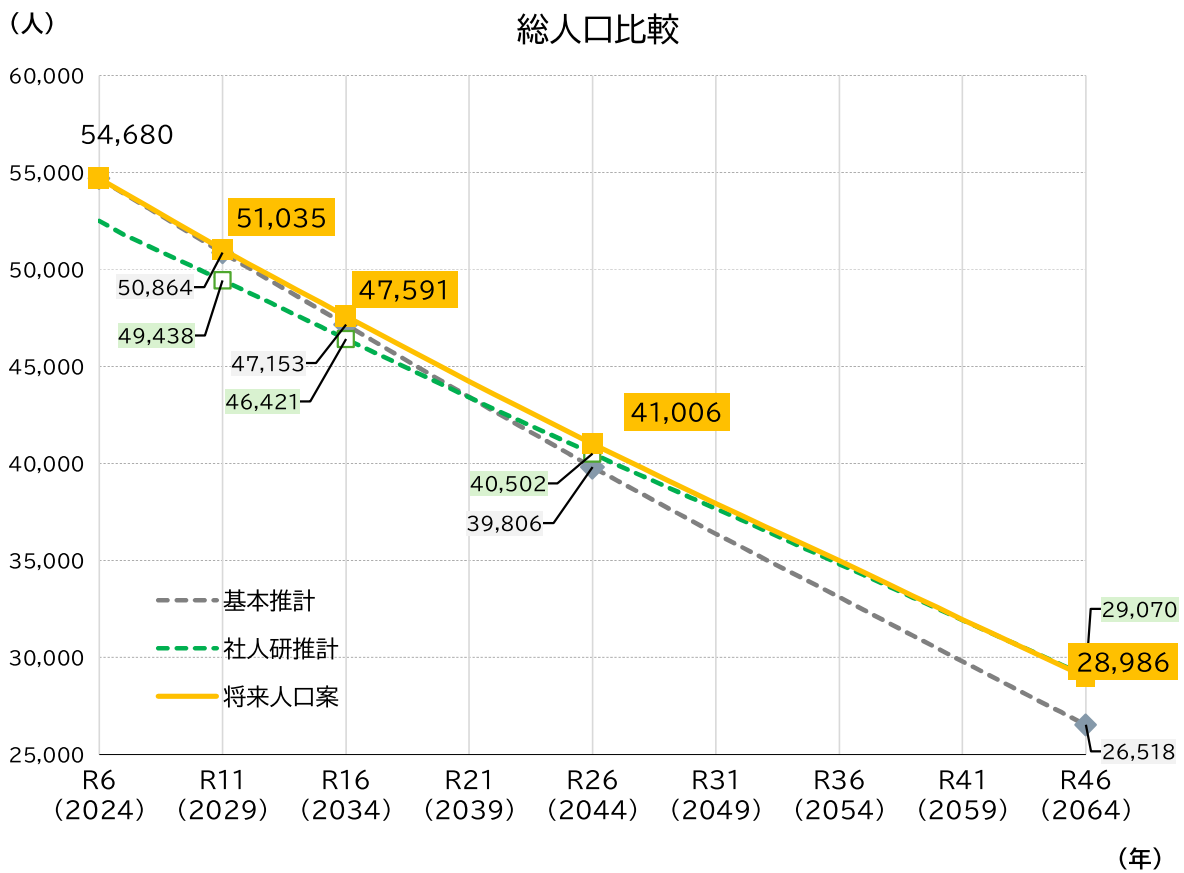
| パターン  | H30~R4<br>(2018~22)<br>(社人研 2024 年) | R11<br>(2029) | R16<br>(2034) | R21<br>(2039) | R26<br>(2044) |
|-------|-------------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 社人研推計 | -1,095                              | -444          | -384          | -292          | -236          |
| 基本推計  | -688                                | -912          | -847          | -821          | -777          |
| 目標人口案 | -688                                | -877          | -780          | -740          | -704          |

※ 社人研推計の値はそれぞれ1年ずれ。

※2 H30~R4(2018~22)年は土岐市の実績値

## パターン別比較

### (1)総人口比較



図表 15 パターン別総人口推移

単位:人

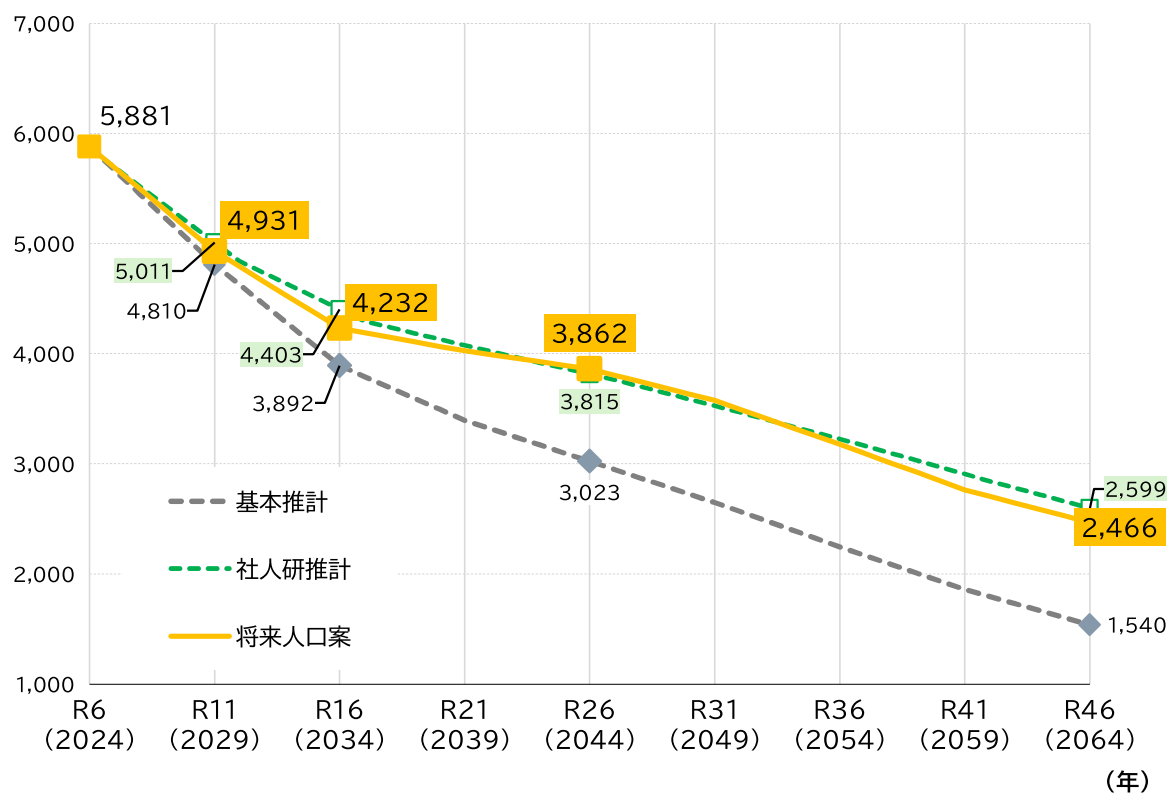
| パターン  | R6(2024)年 | R11(2029)年 | R16(2034)年 | R26(2044)年 |
|-------|-----------|------------|------------|------------|
| 基本推計  | 54,680    | 50,864     | 47,153     | 39,806     |
| 社人研推計 | 52,505    | 49,438     | 46,421     | 40,502     |
| 目標人口案 | 54,680    | 51,035     | 47,591     | 41,006     |

## (2)年齢3区分別比較

### ①年少人口

(人)

### 年少人口比較

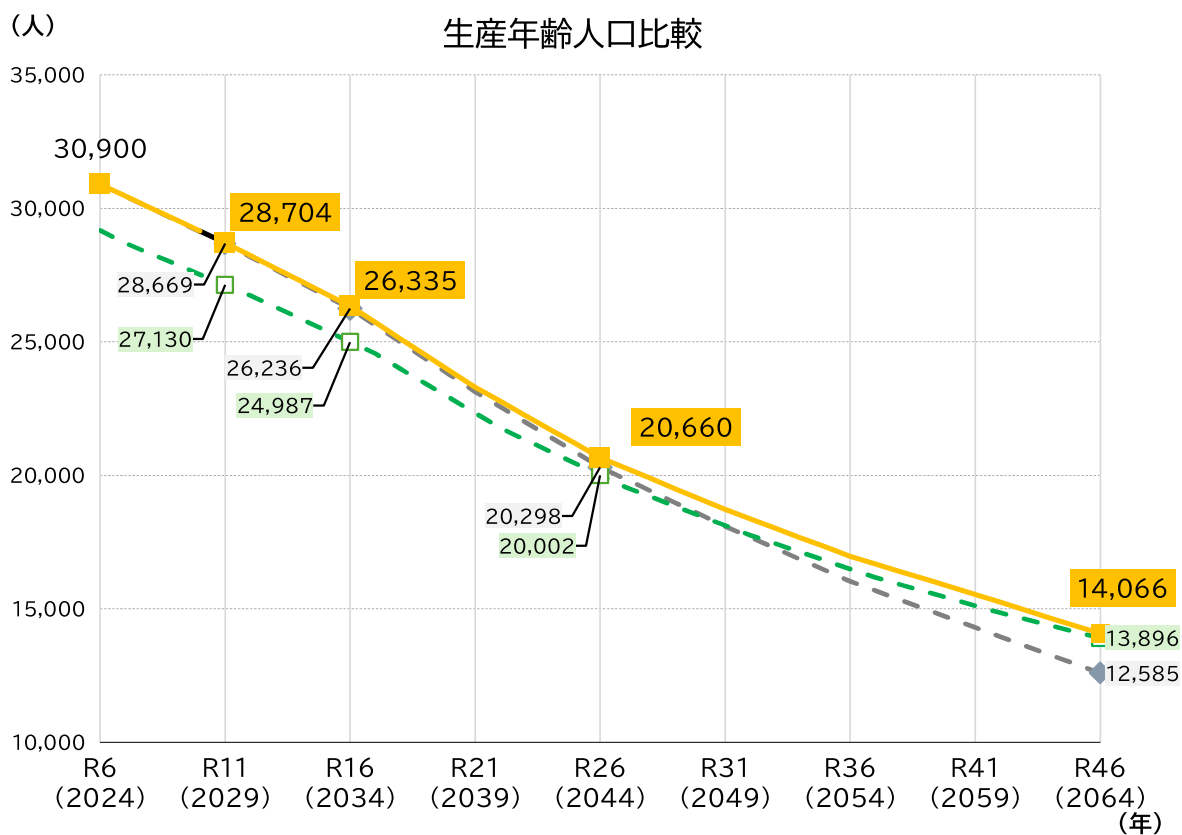


図表 16 パターン別年少人口推移

単位:人

| パターン  | R6(2024)年 | R11(2029)年 | R16(2034)年 | R26(2044)年 |
|-------|-----------|------------|------------|------------|
| 基本推計  | 5,881     | 4,810      | 3,892      | 3,023      |
| 社人研推計 | 5,870     | 5,011      | 4,403      | 3,815      |
| 目標人口案 | 5,881     | 4,931      | 4,232      | 3,862      |

## ②生産年齢人口

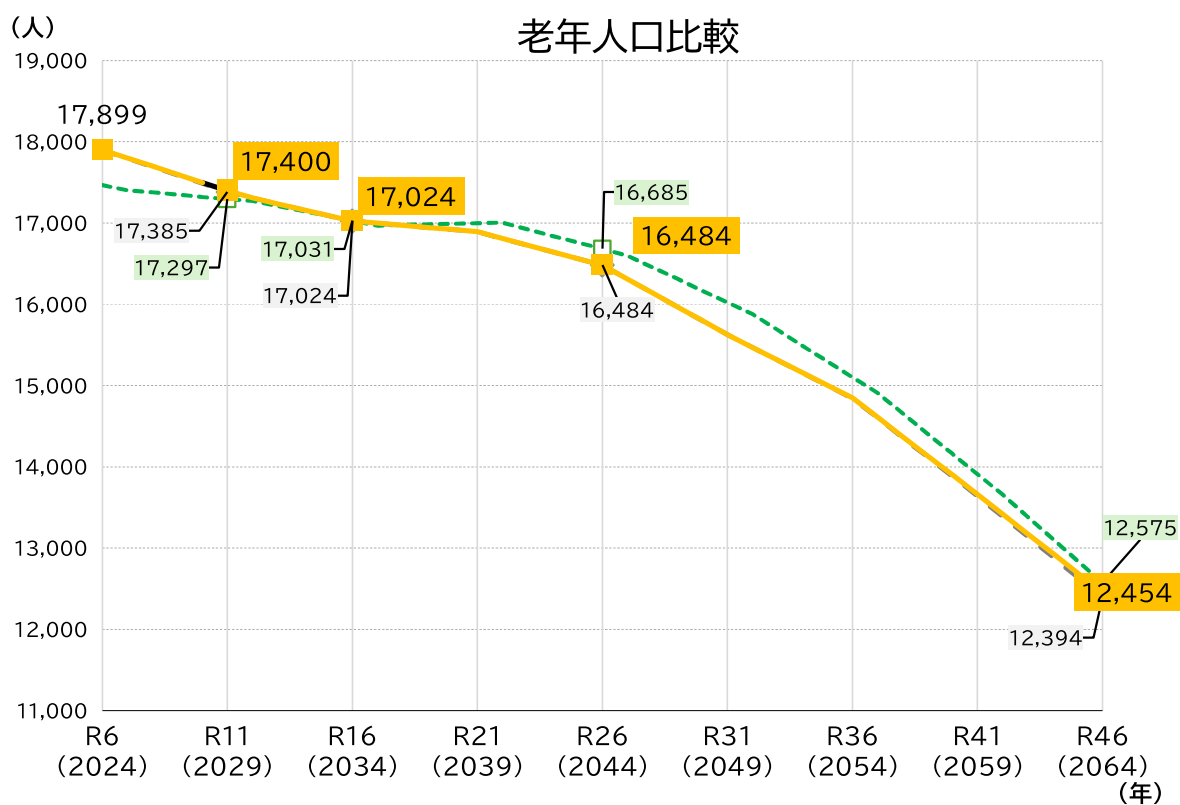


図表 17 パターン別生産年齢人口推移

単位:人

| パターン  | R6(2024)年 | R11(2029)年 | R16(2034)年 | R26(2044)年 |
|-------|-----------|------------|------------|------------|
| 基本推計  | 30,900    | 28,669     | 26,236     | 20,298     |
| 社人研推計 | 29,167    | 27,130     | 24,987     | 20,002     |
| 目標人口案 | 30,900    | 28,704     | 26,335     | 20,660     |

### ③老年人口



図表 18 パターン別老年人口推移

単位:人

| パターン  | R6(2024)年 | R11(2029)年 | R16(2034)年 | R26(2044)年 |
|-------|-----------|------------|------------|------------|
| 基本推計  | 17,899    | 17,385     | 17,024     | 16,484     |
| 社人研推計 | 17,468    | 17,297     | 17,031     | 16,685     |
| 目標人口案 | 17,899    | 17,400     | 17,024     | 16,484     |

図表 19 パターン別3区分別人口推移

| 区分    |        | R6 (2024) |        | R11 (2029) |        | R16 (2034) |        | R26 (2044) |        |
|-------|--------|-----------|--------|------------|--------|------------|--------|------------|--------|
|       |        | 人口        | 構成比    | 人口         | 構成比    | 人口         | 構成比    | 人口         | 構成比    |
| 基本推計  | 総人口    | 54,680    | -      | 50,864     | -      | 47,153     | -      | 39,806     | -      |
|       | 年少人口   | 5,881     | 10.76% | 4,810      | 9.46%  | 3,892      | 8.25%  | 3,023      | 7.60%  |
|       | 生産年齢人口 | 30,900    | 56.51% | 28,669     | 56.36% | 26,236     | 55.64% | 20,298     | 50.99% |
|       | 老年人口   | 17,899    | 32.73% | 17,385     | 34.18% | 17,024     | 36.10% | 16,484     | 41.41% |
| 社人研推計 | 総人口    | 52,505    | -      | 49,438     | -      | 46,421     | -      | 40,502     | -      |
|       | 年少人口   | 5,870     | 11.18% | 5,011      | 10.14% | 4,403      | 9.48%  | 3,815      | 9.42%  |
|       | 生産年齢人口 | 29,167    | 55.55% | 27,130     | 54.88% | 24,987     | 53.83% | 20,002     | 49.39% |
|       | 老年人口   | 17,468    | 33.27% | 17,297     | 34.99% | 17,031     | 36.69% | 16,685     | 41.20% |
| 目標人口案 | 総人口    | 54,680    | -      | 51,035     | -      | 47,591     | -      | 41,006     | -      |
|       | 年少人口   | 5,881     | 10.76% | 4,931      | 9.66%  | 4,232      | 8.89%  | 3,862      | 9.42%  |
|       | 生産年齢人口 | 30,900    | 56.51% | 28,704     | 56.24% | 26,335     | 55.34% | 20,660     | 50.38% |
|       | 老年人口   | 17,899    | 32.73% | 17,400     | 34.09% | 17,024     | 35.77% | 16,484     | 40.20% |



## 参考 1 人口推計の手法について

### (1) 推計手法

人口推計には、出生や死亡、移動といった人口増減の要因についてそれぞれ仮定値を設定して推計するコーホート要因法と、出生・死亡・移動といった要因を問わず、人口増減率だけに仮定値を設定して推計するコーホート変化率法とがあります。

それぞれに、メリットデメリットがありますが、本推計においては、より精緻な推計が可能で、施策効果の影響も分析することが可能であるコーホート要因法を採用し推計しました。

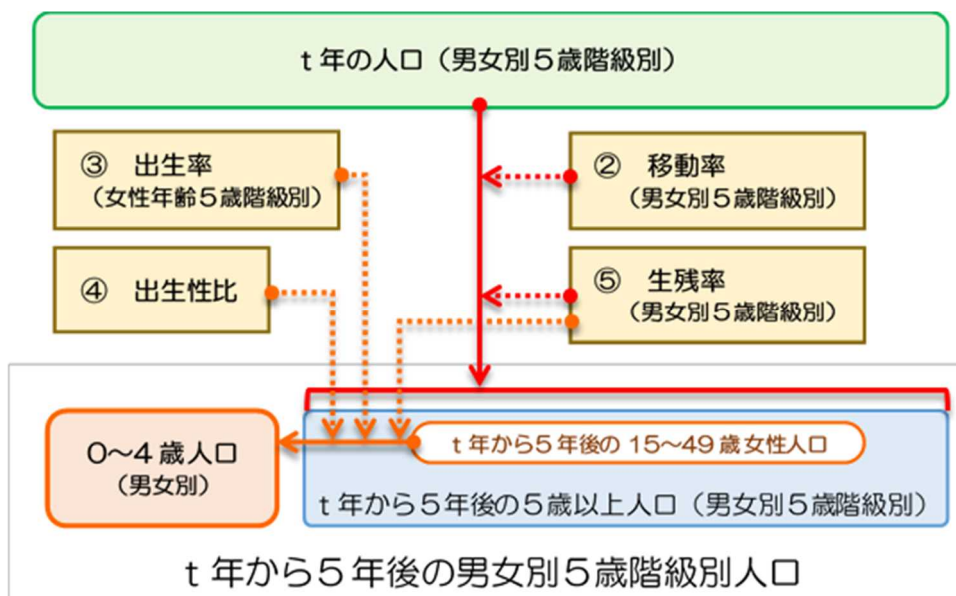
図表 20 コーホート要因法と変化率法の違いとそれぞれのメリットデメリット

| 区分   | 特徴                               | メリット                   | デメリット                        |
|------|----------------------------------|------------------------|------------------------------|
| 要因法  | 変動要因(出生・死亡・転出入)それぞれについて将来値を仮定し推計 | ・各種将来値を個別に設定でき精緻な推計が可能 | ・推計方法が煩雑<br>・推計に十分なデータの収集が困難 |
| 変化率法 | 過去における実績人口から「変化率」を求め、将来人口を推計     | ・簡便に推計が可能              | ・変化率を変更することが困難               |

コーホートとは、同じ年(又は同じ期間)に生まれた人々の集団のことを指します。推計では、5 歳ごとにコーホートを設定し推計を行います。

コーホート要因法は、出生や死亡、移動といった人口増減の要因についてそれぞれ仮定値を設定して推計する手法であり、下記のフローに従って推計を行います。

図表 21 コーホート要因法による人口推計フロー



## (2) 将来人口を展望する上での仮定

### ① 将来人口に必要な仮定値

将来人口に必要な仮定値は下記の通りです。

図表 22 推計に必要な仮定値

| 区分    | 内容                                                     |
|-------|--------------------------------------------------------|
| 基準人口  | 推計の出発点となる基準の人口。                                        |
| 生残率   | 一定期間に生き残る確率のこと。<br>この推計では5歳階級別に5年後に生き残る確率のことを指す。       |
| 出生性比  | 生まれてくる子どもの男女比。<br>通常、男性の方がやや高い。                        |
| 移動率   | 一定期間に発生する転出入差の比率のこと。<br>推計では、男女別5歳階級別に5年間の移動率を利用する。    |
| 出生率   | 女性の人口に対する出生数比率のこと。<br>推計では女性の年齢5歳階級別の値を利用する。           |
| 開発人口等 | 大規模な開発等による人口増加などを見込む人口。<br>小規模な開発等による人口増加は、移動率に含まれている。 |

### ② 仮定値の変更が人口に及ぼす影響の度合い

コーホート要因法において最も重要なのは、出生や死亡、移動といった仮定値等の設定です。移動率及び出生率といった各仮定値が将来人口へ及ぼす影響の度合いを下表に示します。

図表 23 仮定値の変更が人口に及ぼす影響の度合い

| 区分    | 影響度  | 備考                                                                             |
|-------|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 基準人口  | 変更不可 | 実績値を利用するため、値の変動は不可。<br>実際の居住人口を集計した国勢調査人口が望ましい。                                |
| 生残率   | 中    | 若年層(0歳児除く)の生残率は100%に近く、推計への影響は少ない。<br>老年人口への影響は大きく、高齢者層の生残率が高まると高齢化率は高まる傾向にある。 |
| 出生性比  | 小    | 過去の実績をみてもほとんど変化はなく、推計への影響小。                                                    |
| 移動率   | 大    | 引越しなどによる人の移動を表す数値であり、推計への影響大。<br>特に10代後半から30歳前半までの影響が大きい。                      |
| 出生率   | 大    | 子どもの出生数を算出するための数値であり、推計への影響大。<br>特に、15歳未満の年少人口への影響が大きい。                        |
| 開発人口等 | 大    | 大規模な開発が見込まれている場合、推計への影響大。<br>小規模な開発だけであれば、考慮しない。                               |